

報道機関各位

有権者の賢明な判断に資する質量ともに充実した論点解明報道を ～衆議院総選挙にあたっての申し入れ～

NHKを監視・激励する視聴者コミュニティ
共同代表 湯山哲守・醍醐 聡

<http://kgcomshky.cocolog-nifty.com/blog/>

政府の所信表明演説も各党代表との質疑も省いた異常な冒頭解散によって、9月28日、衆議院が解散され、10月10日告示、11月22日投票日というあわただしい日程の総選挙となりました。有権者が各政党の選挙公約を十分に比較吟味して賢明に参政権を行使するには争点本位の報道が大いに期待されます。

そこで当会は、今回の衆議院総選挙をめぐる報道について以下のとおり、申し入れを行います。その際、一般的に争点（論点）重視の選挙報道というだけでなく、予想される争点を整理し、それぞれの争点ごとに充実した取材・調査・報道が望まれる論点のチェック・リストをまとめ、別添しました。これらをご参照の上、問題の核心をえぐる報道に留意いただくよう、要望します。

I. 報道にあたって要望したい留意点

（1）形式的公平ではなく、質的公平を基本に据えた報道を

選挙報道となると、各党間の公平、特に時間配分の公平が強調されがちです。しかし、重視されなければならないのは、「放送倫理・番組向上機構（BPO）」が昨年2月7日に公表した意見（「2016年の選挙をめぐるテレビ放送についての意見」）でも指摘した「質的公平」です。つまり、「政策の内容、問題点、候補者の資質への疑問など有権者の選択に必要な情報を伝えるために、どの政党に対してであれ、どの候補者についてであれ、取材で知り得た事実を偏りなく報道し、明確な論拠に基づく評論をするという姿勢」を強く要望します。

形式的公平にとらわれるあまり、「国民の判断材料となる重要な事実を知りながら、ある候補者や政党に関しては不利になりそうな事実を報道しない、あるいは政策上の問題点に触れない、逆にある候補者や政党に関してのみ過剰に伝えるなどという姿勢は、公平であるとは言い難い」（同上、BPO意見）ことを銘記されるよう要望します。

（2）政党が触れない論点でも重要なテーマは独自の調査報道を手掛けること

有権者の投票判断に重要な意味を持つ国政上のテーマであっても、政党によっては、自

己に不利になるからとか、過去の公約との矛盾が露見するからとかいった動機で、触れようとしないう論点が少なくありません。

そのような論点を独自のアジェンダ設定で調査し、有権者に伝えることは国民の知る権利に応える報道機関の重要な使命であり、とりわけ、選挙報道に期待されるところです。

(3) 選挙情勢報道ではなく、争点解説報道を

選挙期間中の報道では、党首の動静や激戦区の候補者の街頭行動、街の声の紹介に多くの時間が割かれる傾向があります。

しかし、こうした細切れの報道では各政党、各候補者の公約や政見を丁寧に伝えることはできず、イメージ選挙、ワンフレーズを独り歩きさせる選挙報道になりがちです。

有権者の熟慮の上の投票に資するよう、政策本位、争点本位の充実した報道を要望します。

II. 調査・取材・報道にあたって取り上げてほしい論点のチェック・リスト

以上の留意点に基づき、目下、各党が掲げている選挙公約などを参照して、選挙報道にあたって取り上げてほしい論点のチェック・リストを作成しましたので別添します。貴局、貴紙の調査・取材・番組制作にあたって、参考にしていただければ幸いです。

以上